

當港に於ける盟休參加の船舶次第に其數を増加し會社の態度煮へ切らざるを以て何日解決するや殆ど計り知らざるものがあるので神戸港内の保安の衝に當れる水上警察署長小林徳藏氏は本件解決促進の端緒として勞資双方の間に立ち寢食を忘れて奔走し意見の聽取乃至交換の勞を執られ續て海事部出張所事務官中村邦輔氏竝に河内研太郎氏の斡旋となり組合側は濱田副長代理實行委員長として専ら接衝を重ね會社側に於ては黒川支店長が會社代表と決定したる旨の報告あり双方の意見次第に接近したるを以て組合側に於ても大體の腹案を打開け會社に對しては會社の顔を立て組合としては實質を失はざる範圍に於て

航海手當半減の發表は其儘据へ置き其實行を大正十三年六月まで延期し其後は會社と組合と相談して協定すること

とし強硬に之を主張した然るに十日朝に至り河内研太郎氏は會社に於

て承諾するらしいと思はる、最大限度のもの之内示せられた之に依れば

航海手當半減の發表は之を取消すること

但何等かの名義にて減額された金額と同額ものを翌年四月三十日まで支給し其後は會社に於て調査の上考慮すること

而してこれ以上は如何に交渉するも到底貫徹の見込なし組合として不満足であること、は思ふが此上は残念ながら自分の力では如何にも致方なき旨を申添へられた若し此程度にて拵げて承諾せらるゝならば本日時刻を定めて組合側と會社責任者との間に一應豫備交渉を遂げ然る後正式交渉を進められたき旨懇談あつた。

之に對し組合側に於ては慎重考慮の結果現在持續せる盟休は整然たる秩序の下に在るが故に今後如何なる長期に亘る持久戦になつても決し